

プールの授業後の全裸シャワーの思い出

小学六年生の夏の日々の思い出。私の通っていた小学校は、プールの授業後に独特なルールがあった。シャワーを浴びたら水着を脱ぎ、洗って絞り、近くのバケツに入れること。「教室や廊下に水を滴らさないように」というのが理由だった。先生たちは、それが合理的だと考えていたのだろう。でも、六年生の私たちにとって、それはただの「決まりごと」ではなく、ただひたすら恥ずかしい試練だった。

「はい、みんな、早くシャワー浴びて水着洗ってね！」担任の山田先生が、プールサイドで大きな声で叫ぶ。みんなぞろぞろとシャワールームへ向かう。男子も女子も一緒だ。

「うわ、冷たっ！」友達の紗織が、シャワーの水をかぶりながら小さく叫んだ。彼女の声に、つい笑ってしまったけど、すぐに現実が押し寄せる。水着を脱ぐ瞬間がやってくる。私の胸は当時すでにCカップほどに成長していた。下の毛はまだ生えていなかったけれど、身体の変化は自分でも気づくほどだった。みんなも同じように、そわそわしているのがわかった。

「やだ、めっちゃ恥ずかしいんだけど…」紗織が小さな声で囁く。彼女は両手で胸を隠しながら、ちらっと私を見た。その目には、共感と不安が混ざっていた。「ね、早くタオルまで行こうよ」と私も囁き返すけど、心臓はバクバクしていた。

シャワールームの中では、みんなが次々と水着を脱いでいた。紗織の白い肌が水で濡れて光り、あかりの細い肩が震えているのが見えた。未由は、恥ずかしそうに目を伏せながら、水着をバケツに放り込んだ。

私も、急いで水着を脱ぎ、シャワーを浴びる。